

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101133		
法人名	社会福祉法人 さわやか会		
事業所名	グループホーム さわやか昇陽館		
所在地	山口市下関市長府黒門南町6番54号		
自己評価作成日	平成22年12月27日	評価結果市町受理日	平成23年5月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、眼下に関門海峡が広がり、居間や居室からも海を見渡せる環境を利用して、散歩や日光浴などを楽しみ、ゆったりとした気持ちで過ごせるように支援しています。また併設施設のため、他事業所との交流もあり色々な方と接することが出来ます。
職員は意欲的な方が多く、法人と理解と後押しのもとスキルアップや資格取得のための研修に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

具体的な研修計画に添って、年間を通して内部研修を実施され、職員が段階に応じた研修に参加されたり、外部研修受講者の復命報告や資料の回覧等で共有しておられ、職員が一人ひとりスキルアップできるように職員を育てる取り組みをされています。アセスメントシートやセンター方式のシートを活用されて、利用者の思いや意向の把握に努められ、日々のケアに反映しておられ、利用者もゆったりと和やかな時間を過ごされています。担当者会議には家族も参加され、利用者や家族の希望、主治医や職員の意見を反映させ、現状に即した介護計画を作成されています。職員は、利用者ごとの介護計画の目標を共有されて実施状況や日々の様子などを毎日記入され、評価を行なってケアに活かしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目に入るところに掲示し、実施につながるようにしている。	地域密着型サービスとしての理念を作成し、名札の裏に理念を入れ、事務室や玄関等に掲示し、朝礼で唱和し、ミーティングで話し合って実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物、行事を通して地域の方々と交流の場が持てるように努めている。	職員は生活道路を清掃し、海岸一斉清掃にも参加している。法人の夏祭りや焼き芋大会等には地域の人々の参加もあり、小中高校生や老人会等のボランティアの来訪や花見などに出かけて地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事の時にボランティアを呼び、認知症の人の理解や支援方法を話して協力を呼びかけている。 また2ヶ月に1回運営推進会議を開き、地域の方々にも認知症への理解や行事への参加に繋げられるよう努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	各ユニットリーダーが記入した自己評価を全職員が目を通し意見を出し合い、管理者・ユニットリーダーがまとめている。各自のケアの振り返りや見直しをおこなっている。	評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。評価を学びの機会として捉え、職員間でサービスのあり方を振り返り改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者の現状報告や行事計画等を行っている。ご家族、自治会、地域包括支援センター、施設職員の意見を出し合い、今後のサービスの向上へと活かしている。	自治会長、民生委員、ボランティア、地域包括支援センター職員、家族代表2名、施設職員等で年6回開催し、現状報告、行事計画、外部評価報告、家族の意見、地域の意見、訓練等について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者と報告の連絡はしている。また、地域包括支援センターとは、運営推進会議や行事の事等で随時連携し合い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の担当者と連携を図るように心がけ、報告に立ち寄ったり、電話などで情報交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修への参加、ミーティング等での話し合いで、理解を促している。玄関の施錠に関しては国道に面しており危険な為鍵をかけている。外出したい願望があれば、館内散歩や買い物へ出かけるなどに対応している。また家族に電話をかけたりするなどし、安心していただけるように工夫している。	マニュアルがあり、内部研修で全職員が身体拘束の内容や弊害を理解し、スピーチロックにも注意し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。交通事故防止のため玄関に鍵をかけているが、見守りを行いその都度散歩に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加しているが今まで必要とされる方がいなかった。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の不安等を尋ね、理解・納得していただけたよう説明・話し合いを行う。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から意見・要望をお聞きし、記録に残している。職員間で情報の共有を図るとともに、運営に反映させていくよう努めている。	面会時、電話、運営推進会議などで家族等の意見や要望を聞き運営に反映させている。苦情相談窓口や担当者、外部機関を明示し苦情処理手続きを定めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	空いている時間帯・勤務終了後に意見や提案を聞く機会を設けている。また月一回のミーティングでは、職員同士で意見・提案を出し、話し合いの場を設けている。	管理者やリーダーは、毎月1回開催のミーティングや日々の業務の中で職員の意見や提案を聞き、話し合って運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況を把握し、一人ひとりの能力を活かしながら向上心を持って働けるよう職場環境を、条件の設備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに応じた研修に参加してもらい、個々のスキルアップに努めている。また社外研修への参加や、日々の業務内からも知識・経験を増やししながら働いている。	具体的な研修計画を作成して毎月1回内部研修を行ない、外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は復命をしている。自主研修も奨励している。主任が中心となって働きながらトレーニングをしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県宅老所・グループホーム連絡会に入会し、研修会や交流会に1・2名参加している。県外の繋がりがあある5グループホームとも、情報交換をおこなっている。 そして外部研修にも参加した際、そこで意見交換もおこないながらサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話の機会を大切にし、不安や要望等をお聞きする。側に寄り添い、関わる時間を作ることで安心できる関係作りに努める。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や家族を含めた担当者会議、家族会などで、困っている事・不安・要望などに耳を傾け関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時や担当者会議などでご家族の意向をしっかりと聞き、そしてご本人の思いを聞いて、適切でより必要なサービスが利用できるように情報提供・発信をおこなうように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配膳、片付け、洗濯物干し、夕食作りなど、入居者の状態を配慮しながら一緒に作業をおこない、暮らしを支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から要望があれば、外出や外泊していただき家族と過ごす時間を大切にしています。また面会時も、ご家族とゆっくりと過ごしていただけるよう配慮しています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔馴染みの他職員・利用者様に会いに行き談話される。また買い物に行った際も、地域の方々と触れ合いながら関係が途切れないように支援している。	入居前に利用していたケアハウスやデイサービスに出かけて知人と交流したり、買い物、海響館、神社に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。利用者の墓参り希望は家族に伝えて支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	簡単な手作業やレクリエーション、会話を通して入居者同士が係わり合いが持てる場や雰囲気を作りながら支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者のアルバムを作り、差し上げている。また、入院している方のお見舞いに何うなどの付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートやセンター方式、ご家族面会時、ご本人との話の中から、本人の思いや意向を汲み取っている。本人の希望をしっかりと聞き、本人本位に検討している。	アセスメントシートやセンター方式のシートを活用し、日々の関わりの中での利用者の思いや意向など気づいたことを記録して把握に努め、職員間で共有している。把握が困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に協力してもらい、センター方式を記入していただいている。また入居後もご家族面会時に、本人の生活歴・馴染みの暮らし方等を把握するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報伝達を密におこなっている。情報を共有し一人ひとりの状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士ケアカンファレンスを開いたり、ご家族を含めた担当者会議を開いている。それぞれの意見やアイデアを出し合って、現状に応じた介護計画を作成している。	毎月1回ケアカンファレンスを開催し、家族も交えて話し合い、本人や家族の希望や主治医の意見などを反映した利用者本位の介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や状態を記録に残し、気づき等も記入し職員間で情報の共有・介護の見直しに努めている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能を活かし本人・家族の要望を聞き柔軟な支援・サービスに取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援できていません。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じたかかりつけ医に、定期的な受診・往診を受けている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。家族によるかかりつけ医の受診の支援をしている。協力医療機関からの往診もあり、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他事業所の看護師に利用者の状態を伝え相談し、助言をいただいている。また定期的な受診、往診の際に医師に相談し、適切な治療を受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談、アセスメントを通して関係作りに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化がある時は家族、かかりつけ医と話し合いを繰り返している。日々の健康管理や急変時の対応等、利用者、家族が安心して利用できるよう方針を共有している。重度化した場合には、系列の対応可能な施設へ移行できること等の説明も行っている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を利用者や家族に伝えている。重度化した場合は、早い段階から主治医や家族と話し合い、方針を共有し、事業所でできる範囲の支援をしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	研修や勉強会に参加し、それをもとにマニュアル作成を行っている。また、ヒヤリハットの記入を行い事故の未然防止に努めている。事故が起きた場合は報告書の記入、職員間のミーティングを行い改善策等を話し合い再発防止に努めている。	マニュアルを作成し、ヒヤリはつと報告書や事故報告書に記入して検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応の定期的な訓練に取り組む、実践力が身につくように努めている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回法人施設合同で、避難訓練を行っている。運営推進会議を通じて地域の理解と協力への働きかけを行っている。	年2回法人内で消火・通報・避難訓練(夜間想定)を実施し、利用者も参加している。自治会など地域の人の協力を得られるように働きかけをしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけを行っている。	内部研修で学びミーティング等で話し合っ、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応をするように取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いや希望をお聞きし、自己選択・自己決定出来るよう対応をおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大切にし、ご本人の希望に応じて一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい身だしなみや好きな洋服を選んでいただいている。外出する際はおしゃれな洋服を着て頂いたりしている。月2回訪問美容があり、希望に応じて対応している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は厨房で作っていただいているが、朝・夕食は入居者と職員が一緒に作っている。食事の配膳や盛り付け、片付けなど、出来る事を分担しておこなっている。好きなものを聞いたり献立について会話したりして、食事を楽しみに思っただけするようにしている。	利用者は献立のリクエストやおやつ作り、配膳、盛り付け、野菜の下ごしらえ、食器洗いなどを職員と一緒にしており、家庭的な雰囲気である。職員も一緒に食べながら食事を楽しめるように支援している。年2回程度ドライブインで外食している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った量や食材の大きさ等を考慮し、対応を行っている。水分摂取の声かけはこまめにおこない、お茶を飲まない場合は好む飲み物変えたり、違う時間帯に飲んでいただきながら工夫し、不足しないように気を付けている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをおこなっている。その人に合ったケア方法を行い、清潔保持に努めている。また義歯を清潔に保てるように保管したり、歯科往診時相談し治療を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し食前・後に誘導をおこなっている。自立している方は、見守りをおこなっている。尿・便意を訴える方は、その時間帯に誘導をおこなうなどして自立に向けて支援を行っている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや見守り、トイレ誘導などを行ない、排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難時牛乳を飲んでいただいたり、散歩や日光浴をおこない、適度な運動をするように声かけ・機会の提供をしている。かかりつけの主治医に相談し、下剤の服用をおこなっている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一日おきに入浴の声かけをおこない、拒否がある時は無理強いせずにおこなっている。全介助が必要な方は、毎週水・土曜日に機械浴をおこなうなどして、個々に応じた入浴をして頂いている。	入浴は午前10時30分から11時30分、午後は14時頃から16時まで週3回となっており、希望者は就寝前も入浴できる。入浴をしたくない場合には無理強いをせず、時間をずらしたり、シャワー浴、夜間浴など、一人ひとりの状態に合わせた声かけを工夫して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にしている。日中は出来る限り離床して過ごしていただくが、居室で横になりたいときは横になっていただき、安心して寝れるよう支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はファイルされ、職員は薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。服薬時は、ご本人に手渡しし確認しながら配薬している。必要な情報は医師にフィードバックしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴を把握し、能力に応じて家事、仕事等や生活の場で役割を持てるような場を提供している。また好む食べ物や飲み物を提供したり、散歩、レクリエーション通じて楽しみを持てるような支援をしている。	お花見、夏祭り、誕生会、焼き芋大会、小学生や中高生、老人会、ナースボランティアとの交流、手作業(松ぼっくり作り)、しめ縄作り、盛り付け、野菜の下ごしらえ、食器洗い、テーブル拭き、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面を作って張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望や外に出たい希望がある時は館内や外に散歩に出たり、買い物や季節に応じた行事計画を立て外出する機会を設けている。ご家族の方にもお知らせをし、一緒に出かけられるよう支援している。	天気の良い日の散歩、日光浴、週2回の買い物日の設定、ドライブ(花見や神社)、海響館に行くなどの行事等、希望に添って外出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持ちたい希望があれば、ご家族に伝えて所持していただいている。無くさないように置き場所等、配慮をおこなっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀ハガキ、暑中見舞いをご家族へ出している。ご自分で書ける方は、ご家族宛に書いている。ご家族に電話したい希望がある時は電話をかけに行くなど、やり取りが出来るよう支援をおこなっている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にとって不快な音や光がないよう配慮をおこなっている。季節に合わせた壁画作りなどにも取り組んでいる。	共用空間は明るく家庭的な雰囲気、ソファや食堂が集いの場になっており、一緒にテレビを見たり、調理の様子、海の景色を眺められ、利用者同士が交流している。ベランダにはベンチが置かれ、日光浴をしたり外の景色を眺められて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは、居室で過ごしていただいている。また、一人ひとりのお気に入りの席や場所を把握し、落ち着ける場所を作っている。気の合う入居者同士で談話や馴染みのある職員とも交流が持てるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた家具等持ち込んでいただき、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	ベット、タンス、エアコンが設置してあり、使い慣れた寝具やテレビなどが持ち込まれ、家族の写真や仏壇などがあり、自分らしく居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態をしっかりと把握し、出来る部分は見守りをおこなう。その日の状態に合わせて声かけ・一部介助しながら、安全な生活が送れるよう工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームさわやか昇陽館

作成日：平成 23年 5月 1日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	30	一人ひとりの暮らしを支える地域資源の活用ができていない。	地域資源を活用していくことで、本人の力を発揮しながら、安全で豊な暮らしを楽しむことができる。	①買い物や館内・館外散歩を今後も継続しておこなう。季節ごとに外出に出かけて、季節感を感じていただく。 ②行事にもっと家族やボランティア、地域の方が参加してもらえるような声かけをおこなっていく。 ③他事業所との交流を増やしていく。	1年間
2	24 25 26	一人ひとりの思いや生活歴を把握、本人本意のケアの実施について、職員間で考え方の違いがある。	本人の思いや生活歴を把握したうえで、職員間で毎日の状態変化について情報共有に努める。	①連絡ノートを活用しながら、情報共有に努める。 ②ご家族・ご本人にも参加してもらい担当者会議にて情報提供や意見をいただき、生活歴やケアの方向性について話し合いをする。また職員間でもミーティングを行っていく。 ③本人との会話の中から、本人の思いを汲み取る。	1年間
3	5	運営推進会議の出席者で、地域からの参加が民生委員の方と地域包括支援センターのケアマネ2名である。もっと参加者を増やし、外部からの意見を取り込みたい。	グループホーム・認知症について理解者を増やし、活気あるグループホームにしていきたい。	①地域からのボランティアを呼びかける。 ②運営推進会議に参加してもらえるように、地域へ呼びかけをおこなう。 ③運営推進会議で出た意見を、支援の中に取り入れていく。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。